



名古屋都市センター研究成果

平成21年度の研究の概要をご紹介します。
なお、研究報告書は名古屋都市センターのまちづくりライブラリーで、
概要版はホームページでご覧いただけます。

<http://www.nui.or.jp>

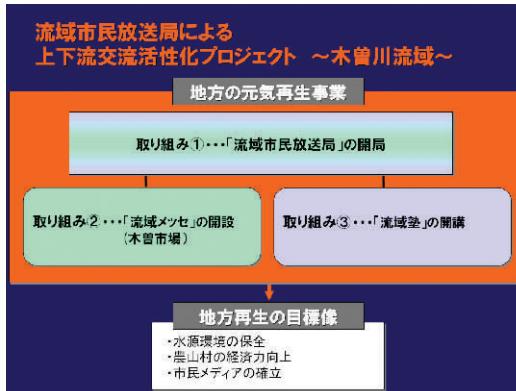
自主研究

研究
テーマ

流域連携のあり方 ～木曽川流域に焦点をあてて～

元名古屋都市センター 調査課 研究主査 川口秀保

近年、世界的に水に関する議論が関心を集めている中、水量の安定的な確保とともに安心・安全でおいしい水に対する国民の意識も高まってきています。



プロジェクト展開イメージ

必要となります。しかし、水源となる上流地域では、過疎化・高齢化等により、豊かな水源環境を十分に維持していくことが困難になりつつあり、こうした現状は、水を通じて恩恵を受けている下流域にとっても共通の課題となっています。

この研究では、「流域」を軸として連携して取り組む交流や地域づくり活動等の実態について、全国調査した結果をまとめるとともに、それに対する行政の関わり方に着目しながら、課題等について考察を行いました。



流域メッセ木曽市場

同時に、名古屋市の水源である木曽川流域で、流域交流を促進させる新しい取り組みの一つとして、当センターが連携協力して展開した「上下流交流活性化プロジェクト」(①「流域



流域市民放送局 収録の様子

市民放送局」の開局、②「流域メッセ」の開設、③「流域塾」の開講など)を取り上げ、これらを通じて、木曽川流域におけるこれからの流域交流のあり方について提示を行いました。

地域まちづくりの推進に 関する調査研究 ～市民団体の連携の視点から～

名古屋都市センター 調査課 まちづくり支援担当

名古屋都市センターでは、平成11年度より、市民が行うまちづくり活動に対し、助成を行っていますが、その団体は、どちらかというと特定の地域課題に関心のある人達が自主的に組織したいわゆる「テーマ型市民組織」が大半を占めています。そこで「テーマ型市民組織」が、地域にどれだけ受け入れられているのか調査し、また、地域で連携することで市民活動が高まり、地域まちづくりの推進につながっていくのかという視点から、平成20・21年度の2年かけて調査研究を行いました。

平成20年度は、テーマ型市民組織の活動状況アンケート調査を行い、21年度は、地縁型組織及びテーマ型市民組織の活動状況のヒアリング調査、連携型まちづくりのあり方を調査研究し、名古屋都市センターの果たすべき役割の検証を行いました。

名古屋都市センターのまちづくり活動助成を受けた81団体からアンケート調査を行った結果、地域の資産や特性を踏まえて、様々な分野で市民が主体的に活動していることが分かりました。次に、ヒアリング調査の結果、地縁型組織やテーマ型市民組織の連携の多様性やそれぞれの活動の特徴、課題等が見えてきました。

自分たちのまちを自分たちで考え、つくっていくといった住民自治の機運が高まる中で、地域でまちの夢を描き、合意形成を図り実現していくためには、地域で課題意識を持って活動するテーマ型市民組織と地縁型組織の両者が協力しあいながら、地域課題を明確にし、役割分担しながら活動していくことが地域課題の解決に有効であり、こうした連携を考えるうえでも、地域のまちづくりに關係する団体・組織や人々の交流の場があることが大切だといえます。名古屋都市センターの果たす役割として、行政との橋渡しを担いながら、一貫した人材育成、支援、交流の場づくりを継続していくことが欠かせないと考えます。

名古屋市住宅供給公社の一戸建分譲住宅 シティハイツ志段味Ⅳ

先着順受付中

- 所在地／名古屋市守山区大字下志段味生下り地内他
- 交通／ゆどりーどイン「荒田」停徒歩約6分●敷地面積／約188～219m²●建物面積／約116～135m²●譲渡価額／3,891.9万円～4,496.4万円●募集戸数／5戸



お問い合わせ先／名古屋市住宅供給公社 事業課 ☎0120-714-794

(H23.2.1現在)